

令和7(2025)年も4月となり、桜の便りが国内各地から届いています。本誌がお手元に届く頃には桜前線も北上し、北の地でも満開の桜がみられていることと思います。

もう5年も前のことになりますが、新型コロナウイルスパンデミック初期の影響を受けて、卒業式や入学式、そしてお花見はどうなるんだろうというニュースで溢れていました。今年はいろいろな年度交替の行事や楽しいイベントが、何事もなかったかのようにスムーズに行われているように見受けられます。災害や紛争・戦争、政治の変化など、国内外は依然として大きく揺れ動いていますが、お花見などができる落ち着いた日常が保たれるよう願うばかりです。

さて、先月刊行の本誌3月号は「他科の視点・診療連携の観点でみる母斑・母斑症」その1として「総論および疾患別の概説」の特集をお送りしました。今回の4月号ではこれに続く特集その2として「診療科ごとに関わりの深い母斑症の診療ポイント」につき、小児科・耳鼻科・整形外科・皮膚科・形成外科・脳外科・泌尿器科のエキスパートの先生方にご執筆をお願いしました。日常診療上でも遭遇する機会のある「母斑症」も、分子遺伝学の進歩によって診断・治療に大きな変化がみられてきています。この機会にあらためてこれらの進展とますます重要

となる多診療科の連携について読み取っていたできれば幸いです。

綜説には、周産期医療において早期診断と医療介入に重要な疾患の一つである「新生児ミトコンドリア病」について寄稿いただきました。社会小児科学欄として小児医療と行政の橋渡しとして、国立成育医療研究センターが取り組んでいる「成育こどもシンクタンク」等についての紹介を、トピックス欄では「無鎮静による乳児・新生児のABR検査やMRI撮影への工夫(真空固定具)」について紹介をしていただきました。目で見ると小児科には「反復性リンパ節炎が疑われた腋窩部副乳例」を、症例は「ESBL産生大腸菌による反復性尿路感染症の乳児に対するホスホマイシンの予防投与」「有熱時けいれんを主訴に受診し、けいれんを反復した水中毒」について報告をいただきました。日本医科大学小児科教室による最近の外国業績は、今回は腎・尿路系に関する4論文の紹介をいただきました。

春の陽気にまどろみながら本誌に目を通すのも一興かと思います。どうぞ今月号をお楽しみください。

(岡部 信彦)

編集：中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄(ABC順)

小児科

第66巻 第4号 4月号

2025年4月1日発行(毎月1回1日発行)

定価3,190円(本体2,900円+税10%)

年間購読料金

定価49,500円(本体45,000円+税10%)

[年間13冊(増刊号、増大号を含む)の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03-3811-7165 [雑誌部直通]

Tel 03-3811-7184 [営業部直通]

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権(送信可能化権を含む)、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。